

【緑で結ぶ心の輪】



Vol.63 (平成26年9月)

埼玉グリーンアドバイザーの会 広報委員会

〒336-0035 さいたま市南区松本 2-1-13 柴田園芸刃物株式会社 事務局

TEL: 048-864-2311 / FAX: 048-864-2355

事務局メールアドレス

s-ga0329@s-greenadviser.org

埼玉GAの会ホームページ

s-greenadviser.org

【研修報告】『植物園探訪・山野草の研究X 東京都薬用植物園』

日時：平成26年6月7日

場所：東京都薬用植物園

講師：柳下和之氏 (埼玉GAの会 理事)

参加人数 9名

柳下先生の植物園を巡る研修会も今回で10回目になります。

天気予報の通り朝から激しい雨で、公共交通機関が止まったこともあり欠席者も多く、申込者のほぼ半数の9名(親子での参加1組)の参加がありました。

まずは入口では、珍しい八重の「ドクダミ」が迎えてくれました。温室に入ると白っぽいピンクの花が咲いている「ゲットー」、幹に直接実を付ける「ジャボチカバ」、かわいい実を付けた「ミッキーマウスノキ(オクナキルキー)」、「カカオノキ」、「バニラノキ」など多くの植物が季節に合った花・実をつけていました。

「モンステラ」の葉の切り込みは、下部の茎や葉に光が十分の届くようするためのものだと教わりました。

仏教の三大聖木、「無憂樹(むゆうじゅ)」「菩提樹」「沙羅双樹」の説明もありました。

蜂を見つけると、あれは「マルハナバチ」だとし、その説明が始まりました。いつものことながら柳下先生の知識の幅の広さに感心しました。



隣にある冷房室には「ヒマラヤの青いケシ」や「トリカブト」の花を見ることができました。但し中には入ることはできなくガラス越しに見るだけでした。

園内は、漢方薬原料植物区、民間薬原料植物区、染料香料原料植物区、製薬原料植物区、有用樹木区、有毒植物区、ケシ・アサ植物区などに分割され、それぞれの植物には説明書きがしっかり付いています。バーコードリーダーを活用することでより多くの情報を得ることができます。

昼食をはさんでゆっくりと柳下先生から話を聞く研修予定でしたが、傘が離せない天候だったために残念ですが午前中で終わりました。

入園料は無料ですし、東大和市駅から徒歩で2分の近さ、資料館も見学できなかつたこともあり、天気の良い日にゆっくりと勉強したいと思います。

文責 杉浦 啓泰

「東京都薬用植物園」散策日帰りツアーに参加して。(井本 弘子)

それは、濃いピンク色が青空に映える「夾竹桃」。大好きな夏の花です。きりっと空に向かって咲き誇り、細長い葉とのコントラストも凛々しく美しい。そんな優雅な花木に猛毒があり、かつて多くの人を死に追いやっていたとは驚きです。

東大和市駅近くの「東京都薬用植物園」には、薬用植物や、有毒植物、染料などに使われる有用植物などが、31,398 m²の広い園内に、整然と植栽展示されていました。あいにくの雨でしたが、講師の柳下和之氏の流暢な説明を聞きながら、大変興味深く植物を観察出来ました。

特にケシ・アサ試験区の展示は、二重の鉄柵に有刺鉄線まで張られ、まるで猛獣並みの扱いの「ケシ坊主」に思わず苦笑してしまいました。そのケシからは、痛み止めとしての「モルヒネ」が、麻薬としての「アヘン」が作られます。まさに、薬と毒は紙一重。

人間は、自然からの贈り物の恩恵を受けて、今日があると実感します。また、絶滅危惧植物コーナーでは、絶滅危惧種が野生植物全体の24%にまで及び、実に4種に1種。その最大の減少要因が、人による開発行為でした。自然保護を考えさせられます。今までは、園芸植物の姿かたちを愛でて楽しんでいましたが、植物の持つ、恐ろしくも偉大な能力を、知る事が出来ました。そして自然の生態系が、人間ととても深い繋がりがあるという事を改めて学べた研修会でした。

【研修報告】『園芸・誰も知らないここだけの話 III』

日時：平成26年7月15日

場所：浦和コミュニティセンター

講師：望田明利 氏 (園芸ソムリエ、GA ちば・花緑の会 会長)

参加者 会員22名 一般1名

日中梅雨の晴れ間の34℃の暑い日でしたが、夕方からの開催で、研修するには最適でした。

講師の望田先生のお人柄もありますが、座談会形式で研修が進められ、いつしか「生物農薬って何」と、不思議と引き付けられていました。またモグラとネズミの違いまで発展する興味引くお話でした。

研修内容は、特定農薬は、「食酢」、「重曹」、「使用場所と同一の都道府県内で採取された天敵」の三種が平成25年8月現在認められているとの話から始まりました。

特定農薬とは、薬効のあるものの中から原材料に照らし合わせて安全であること(食して大丈夫なもの)が確認されたもので、100%安全なものです。

今検討中のものとして

- ①電解次亜塩素酸水＝キュウリ、イチゴ等の病害防除に使われる。
- ②エチレン＝ばれいしょの萌芽抑制、バナナやキウイフルーツ等の果実の追熟促進。

③焼酎（エチルアルコール）＝キュウリ、ナシ及びモモ等の病害虫防除

があるが、焼酎は日本酒造組合中央会が反対しているので難しいだろうとのことでした。

生物農薬の話では、飛ばないテントウムシ（商品名：テントップ）、自然界にいる飛ばない種を集め、劣勢遺伝を利用して作ったものだと紹介がありました。現在販売されている天敵農薬一覧表が資料として添付されており、この分野の研究が進められていることに驚かされました。

薬剤抵抗性の問題にも触れ、薬剤を交互に使うようになったが間違った解釈をしている人が多いので商品名が異なっても同じ系統の薬剤は同一として考えることが必要（商品名と一般名と化学名を理解すること）。

「近頃、消毒しても効かない」との質問に会っている方は、作用機構分類まで調べると納得できる回答が出来ることでしょう。

また、ダニやうどんこ病は、とても抵抗性が付きやすく同じ薬剤を掛けないよう散布回数を守り管理することが必要だということも教わりました。

余談ですが、モグラは、肉食で植物の根は、食べないそうです。

モグラがミミズを食べるため（生活するため）に掘った穴にネズミが入り、植物を食い荒らすそうです。

三回目ですが、何度お聞きしても納得できるおもしろい研修会です。

是非次回ご参加ください。

文責 宮田はつ美



望田講師と研修会参加者

【当会の今後の研修会予定】

11月中旬 「矢祭園芸 見学会」

場所：福島県東白川郡矢祭町

講師：金澤 美浩 氏

シクラメン、カーネーションなどの生産現場を見学

近隣の青年農業者とともに多品目、高品質、多量生産矢祭町鉢物研究会を立ち上げ、オリジナル品種を中心とした生産及び共同出荷に取り組み、他にはない特色ある産地作りに貢献しています。

今回は、季節の鉢物「シクラメンやカーネーション」の栽培など興味ある見学が期待できます！

【柳下 和之氏（園芸研究家）のコラム 第19回目】

イヌゴマ（チョロギダマシ）

渡良瀬遊水地やサクラソウで有名な田島が原に夏の終わりに行くと言つてよいほど見かけるのがこのイヌゴマです。

とても愛らしい桃色の花を咲かせるのですが、和名も別名も偽物呼ばわりなのは不遇な気がします。和名のイヌゴマはゴマに似ているけど役に立たない、要らぬゴマと言う事だし、別名のチョロギダマシはチョロギに似ているけど食べられないという意味ですから・・・。

有用植物に似ているばかりに何やら役に立たない事ばかりがピックアップされて「イヌ（いらぬ）」とか「ダマシ」とか失礼な名前です少し可哀想な気がします。

でも単純に丈夫な宿根草として見れば、園芸的には魅力的ではないでしょうか。

勿論派手さはありませんがイヌゴマより地味なのに市販されている宿根草は結構あるものです。よく見ると地域的な変異、個体差もあるので選抜することで育種することで園芸植物として化けそうな気がします。ちなみにハーブとして知られるふわふわモコモコのラムズイヤーもこのイヌゴマの仲間、スタキス属なので素質ありますよね。



【編集後記】

今年の夏は、集中豪雨が各地で多発する自然災害の悲しい事故の多い年でしたが、会員の皆様には如何お過ごしでしょうか？ 8月に入り「デング熱」騒動が代々木公園周辺で発生し、関係する公園などで閉鎖問題が発生し、イベントが中止されるなど大混乱に陥る状況もありました。

今回の研修報告の一つは、交通機関も止まる豪雨の中での柳下講師による恒例の植物園めぐりです。豪雨のため、午前中で終了してしまいましたが参加された方は本当にご苦労様でした！

更に、もう一つは夜に開催した研修報告で、園芸ソムリエの望田氏のシリーズ第3回です。毎回ですが、夜に開催することと講師の講演内容や知名度の影響で参加者が多くなっています。

当会の研修会は、年々充実してきています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

新しいアイデアやご意見などございましたら積極的ご提案ください！お待ちしております。